

モーツァルト
W. A. Mozart

REQUIEM

東京アマデウス合唱団・渋谷混声合唱団
合同演奏会

Program

1

ミゼリコルディアス・ドミニ ニ短調
Misericordias Domini in d KV.222

キリエ ニ短調
Kyrie in d KV.341

アヴェ・ヴェルム・コルプス
Ave verum Corpus KV.618

2

レクイエム ニ短調 ドルース版
Requiem in d KV.626

Edited and completed by DUNCAN DRUCE

11/23(水)

新宿文化センター大ホール
18:30開演

ごあいさつ

本日のご来場ありがとうございます。

東京アマデウス合唱団と渋谷混声合唱団は、各々創立15周年と10周年の節目を迎えました。この記念すべき年にあたって、二つの合唱団が合同で演奏会を催す企画が生まれたのは昨年のことでありました。

以来、優れた指導者と共演者に恵まれ、二団体の協力と努力の甲斐あって、ここに約百人の混声合唱による演奏会の実現の運びとなりました。

この度は、全編モーツァルトの作品を探り上げましたが、主題「レクイエム」(D. ドルース版)をはじめ、すべてを二長調と二短調に基づく曲で構成いたしましたので、題して“モーツァルト作品 二調の夕べ”ということにもなります。

私たちの演奏するモーツァルトが、皆様の心の琴線にどれほど近づき、どれほど触れさせていただくことができましょうか。

皆様のご来場に重ねてお礼を申し上げますとともに、今後とも私たちの活動に暖かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

1994年11月23日

東京アマデウス合唱団
渋谷混声合唱団

東京アマデウス合唱団

モーツァルトのミドルネームを戴く当団が“レクイエム”の演奏を行なうのは、創立以来、4度目となります。

今回のレクイエムは、解説に掲載するとおり、これまで永い間演奏されてきたものと異なり、モーツァルトの技法を最も忠実に具現したものとして評価されている、ドルースの編によるものです。

その構成と和声、そしてなによりもその深淵において趣きを新たにレクイエムの演奏に携わることに、限らない喜びを感じます。

今宵、渋谷混声合唱団とともに、私たちは初心にかえってこの大曲に臨みます。

- ⑬ ソプラノ/浦川 聡子 大久保ハミ子 加藤多志子 金城恵美子 桑島加代子
小松運貞子 佐藤 友美 佐藤 裕子 辻村 順子 寺田美穂子
永瀬 久子 村松あおい 吉田 弘美
⑭ アルト /甘粕 利枝 石橋真須枝 伊藤 正子 加藤 尚子 加藤美穂子
国府田文子 重泉 秀子 香原 芳子 辻 敏子 西川 正子
野田 妙子 平野 玲子 宮崎 米子 山中ゆりか
⑮ テノール/伊原 宏 片岡 繁 中屋 哲夫 松平新太郎 吉田 英人
柳沢 琢磨
⑯ バ ス/柿沼 哲 香原 定三 田中 守久 野口 碩 船矢 幸一
橋本 克久 吉田 一郎

渋谷混声合唱団

渋谷混声合唱団は渋谷区の「第九を歌う会」から発足し、齋藤明生先生の指導、水野克彦先生のピアノ伴奏のもとに今年10周年を迎えました。この10年間の演奏会では、フォーレのレクイエム、ハイドンのミサ、ヴィバルディのグロリアなどの宗教曲を中心に歌って参りました。

この度、団結成10周年を記念しての演奏会を、同じ齋藤先生の指導を受けて来られた東京アマデウス合唱団と合同で実施出来ます事は、大きな喜びでございます。

これからも団員一同、さらに質の高い演奏会が開けるよう努力を重ねて参る所存でございます。

- ⑮ ソプラノ/相原 芳子 天野 朋子 有馬美奈子 石川 清子 伊藤 住子
宇仁田玲子 斎藤 和子 坂元 照子 清水 静 香野 恵子
鈴木あつ子 鈴木 裕子 塚越 信子 手塚 康子 西村 礼子
原 純子 吹野 麗子 吹野 有美 福永 君子 前川 和子
正木 歳子 宮岡ヨウ子 宮崎 妙子 山形 峰子 山下 千枝
⑯ アルト /宇野 節子 大串 尚子 岡田 通子 小川由美子 押田 恵子
神岡 礼子 北嶋 友子 木村 栄子 日下部恵子 小松 礼子
末永 洋江 香原 信子 鈴木 悦子 鈴木 真理 鈴木みさ穂
高橋 栄子 田村 瑞子 寺村 基枝 福渡茂登子 村田 恒子
本橋 幸子 矢崎むつみ 山野まさえ
⑰ テノール/石井 信隆 伊藤 秀明 大友 祥一 久保 快哉 熊沢 唯男
高瀬 国雄 水梨 信久 吉田 潤司
⑱ バ ス/有賀 憲 大串順一郎 清水 奎亮 西巻 昭 平田 昭広
福渡 透 山崎 和樹

- 指揮
齋藤 明生 東京芸術大学声楽科卒業，同大学院修了。1981年芸大定期演奏会のブラームス「ドイツ・レクイエム」でソリストに選ばれた他，在学中より「マタイ受難曲」「メサイア」，モーツァルト「レクイエム」，ベートーヴェン「第九」等のソリストとして活躍。83～85年東京バッハアカデミー，89年シュトゥットガルトバッハアカデミーにアクティブ受講生として参加。92年にはライブチヒ聖トーマス教会においてH. J. ロッチェ指揮によるカンタータ礼拝式に出演。また在学中より在籍している芸大バッハ・カンタータクラブで多年にわたり演奏委員長として指導に当たる。声楽を須賀靖元，兵藤豪希，R. フィッシャー，Ph. フッテンロッハー，宗教音楽を小林道夫，兵藤豪希，指揮を伊藤英一の各氏に師事。現在，宗教音楽研究会合唱団，東京アマデウス合唱団，渋谷混声合唱団指揮者。
- ソプラノ
高橋 節子 札幌大谷短期大学音楽科卒業，同専攻科修了。東京芸術大学声楽科卒業，同大学院修了。在学中に芸大バッハカンタータクラブに在籍。芸大定期演奏会においてハイドン「天地創造」にソリストとして出演する他，多くの宗教曲のソリストを務める。92年バッハアカデミー（独）に参加，H. リリンク指揮の演奏会にソリストとして出演。93年日演連新人推薦演奏会（札幌）に出演。93～94年国際ロータリー財団奨学生として，独フライブルクに留学。藤田道子，戸田敏子，伊原直子，E. M. マイヤー-オルバースレーベンの各氏に師事。
- アルト
中巻 寛子 東京芸術大学声楽科卒業。現在同大学院博士後期課程に在学中。声楽を岡部多喜子，戸田敏子，毛利準の各氏に師事。バロック期の声楽作品を中心に研究・演奏する一方，イタリア近代歌曲までの幅広いレパートリーで活動している。
- テノール
大島 博 中央大学法学部卒業後，東京芸術大学声楽科に進み，渡辺高之助，高丈二，中山梯一，原田茂生の諸氏に師事。86～88年ミュンヘン音大でE. ヘフリガー氏に学ぶ。90～91年フィッシャー・ディスカウ氏に師事。91年ベルリンフィル・ジルベスター・コンサートに出演したのを始め，ドイツ・リート及びコンサート歌手として数多くの演奏会に出演している。
- バス
箕輪 健 東京音楽大学卒業，同研究科修了，二期会準会員，声楽を黒田 清，栗林義信，白石隆夫の各氏に師事。「クロスロード・シンガーズ」ソリスト，「東京合唱協会」会員，「アンサンブル・阿吽」「ミンストレルシンガーズ」メンバー，ベートーベン「第九」，モーツァルト「レクイエム」などのソロ活動を行う一方，川越混声合唱団等，合唱指揮者としても活動している。
- オルガン
今井奈緒子 東京芸術大学オルガン科卒業。ドイツ国立フライブルク音楽大学修了。河野和雄，秋元道雄，廣野嗣雄，Z. サットマリーの各氏に師事。1985年，G. ベーム国際オルガンコンクールに，88年ブルージュ国際J. S. バッハ-C. Ph. E. バッハコンクールに入賞。現在，東京芸術大学オルガン科講師。日本キリスト教団霊南坂教会，新宿文化センター・オルガニスト，国際基督教大学副オルガニスト。
- 管弦楽
コレギウム
アルジェントゥム 1984年，東京芸術大学の卒業生及び在学生によって，バロックから古典派にかけての音楽を専門に演奏するため結成。これまでに年間約十数回の演奏会を行ってきたが，近年は「18世紀の音楽会」「深川コンサートシリーズ」「ヘンリーパーセルの肖像」など独自のテーマによるユニークな演奏会シリーズを行い好評を博している。また声楽曲，特に宗教音楽の分野での的確な解釈と演奏によって，様々な合唱団と共演。また古楽器演奏の分野でも活発な活動を行い，メンバーはバッハ・コレギウム・ジャパン，東京バッハ・モーツァルトオーケストラ，ザ・バロックバンド等で活躍。コレギウム・アルジェントゥムとは“銀の合奏団”の意味。
(Vn. 1) 高岡真樹，大田也寸子，関口敦子，(Vn. 2) 海保あけみ，大谷美佐子，宇田かつら，(Va.) 森田芳子，深沢美奈，(Vc.) 小山みどり，中沢央子，(Cb.) 桜井 茂，(Cl.) 小林 聡，及川 豪，(Fg.) 村上由紀子，北田かおり，(Tp.) 桜井 匡，酒井伊知郎，(Tb.) 榊原 徹，小倉史生，稲場一郎，(Ob.) 桃原健一，大見佳菜子，(Fl.) 池ノ谷光洋，斎藤和志，(Timp.) 岡田全弘，
- 練習ピアニスト
水野 克彦 東京芸術大学卒業。ピアノを滝崎鎮子，クラリネットを千葉国男，室内楽を細野隆興，オルガンを今井奈緒子の各氏に師事。現在はオルガン，通奏低音の他，合唱指導にも幅広く活躍。日本オルガニスト協会会員。

演奏曲目ノート

1

Misericordias Domini KV. 222 (205a) ニ短調

1775年1月から3月にかけてオペラ「偽りの女庭師」*La finta giardiniera* K. 196の初演のため、ミュンヘンに滞在していた19才のモーツァルトは、このオペラの依頼主バイエルン選帝侯マクシミリアン三世の要望によって、ポリフォニーの教会音楽をという注文に応じて、この奉納唱*Offertorium*を作曲した。モーツァルトには対位法の傑作をお目につけたいという気持ちもあって、力を注ぐ結果になった。初演は3月5日選帝侯礼拝堂で行われた。*Misericordias Domini*のホモフォニックな静的部分と*Cantabo in aeternum*のフーガ風のポリフォニックな動的部分が11回繰り返される。奉納唱は祭壇に聖体と葡萄酒がささげられるときに聖歌隊によって歌われる。

Kyrie KV. 341 (368a) ニ短調

オットー・ヤーンは、この曲がザルツブルグ時代の宗教曲では使われなかった管楽器、特にクラリネットまでも使用している点に着目して、オペラ・セリア「イドメーネオ」*Idomeneo, re di Creta* K. 366上演のため1781年1月27日から3月12日までミュンヘンに滞在していた間に、オペラの依頼主であるバイエルン選帝侯カール・テオドール公に献呈するために書かれたと推論した。曲の自筆譜は1840年までに失われていて結論が出せないが、最近の研究では深い響きを持つ和声を奏でる管弦楽法、憂いを帯びた半音階的な音形を重視してウィーン時代後期の作品ではないかとする説が新モーツァルト全集以降有力になっており、一部分にマクシミリアン・シュタッドラー、ヨーハン・アントン・アンドレ等による加筆も考えられている。

Ave verum corpus KV. 618

1791年6月17日に妻コンスタンツェが保養に来ていたバーデンで彼女の療養中世話してくれた地元の教会の合唱指揮者アントン・シュトルのために返礼として書かれたもので、モテットとして分類されている。歌詞は法王イノケンティウス6世の作といわれ、ミサの中で捧げられたパンと葡萄酒が聖霊によってキリストの体と血に変えられる、いわゆる「聖変化」のときに古くから使われてきた。合唱はニ長調の静かな歌い出しに始まって、穏やかに進められ、「今際の試みのときに（あなたのお体と血を私たちにあらかじめ味わわせて下さい）*in mortis examine*」で最高潮に達し、静かに歌いおさめられる。

2

Requiem KV. 626 ニ短調 (Duncan Druce 復元補完版)

1791年晩春または初夏にモーツァルトは「あなたの芸術に熱狂する者」と名乗る匿名の人物から使者を通してレクイエム・ミサの作曲の依頼を受けた。依頼主はウィーン新市街に近いシュトウパハ城に住むフランツ・フォン・ヴァルゼック伯爵で、2月14日死去した夫人の追悼ミサとして依頼したのであった。モーツァルトは「魔笛」*Die Zauberflöte* K. 620 や「皇帝ティートの慈悲」*La clemenza di Tito* K. 621 の仕事のために進行を妨げられ、12月5日世を去ったとき、草稿を未完成のまま残した。未亡人コンスタンツェはすでに受けとった契約金の半額を返さなければならないことを恐れて、ヨゼフ・レオポルド・アイブラーなどに補完を頼んだ。アイブラーは*Dies irae* から始まってオーケ

ストレーションを書き入れていき、*Lacrimosa* に2小節手を加えたところで仕事を断念したため、フランツ・クサーヴァー・ジュスマイアーが最終的に補筆を完成させた。ジュスマイアーはモーツァルトの生前この作品の展開やオーケストレーションを論じ合ったと言う。新モーツァルト全集を始め、このモーツァルトの意図を最もよく知る立場にあったジュスマイアーの補筆が今日も重視されているが、批判検討の声も多く、フランツ・バイヤー（1979ミュンヘン）、リチャード・モーндガー（1986ロンドン）、ロビンス・ランドン（1989ロンドン）、ロバート・レヴィン（1991シュトゥットガルト）等により、改善の試みが為されてきた。Duncan Druceによる補筆版（1992ロンドンNovello社）はその最新の試みである。

入祭唱Introitusの*Requiem aeternam*の部分は、モーツァルトの手で完成されていた。楽想ばかりでなく、フーガと交唱の両要素を組み合わせ、ソロの部分を入れた構成にもミヒャエル・ハイドンの*Requiem solemn*（1771）の影響が著しい。Kyrieもモーツァルトによってほぼ完成されたが、オーケストレーションはジュスマイアーのほか、フランツ・ヤコブ・フライシュテドラの手も加わっている。モチーフはヘンデルの「メサイア」「ヨセフとその兄弟たち」などの影響が指摘されている。続唱Sequentiaの*Dies irae*は低音部がグレゴリオ聖歌の変形になっていて、続くバスのソロに導かれるTuba mirum「畏るべきみいつの主よ」をフォルテで強く呼び掛けるRex tremendae、ウィルヘルム・フリーデマン・バッハの「シンフォニア ニ短調」の影響が指摘されているソロ四重唱のRecordare、「呪われた者たちが口をふさがれ、激しい炎に引き渡されるとき」を、地獄のすさまじさを表したヴァイオリンと低音楽器の旋律に乗せてうたうConfutatisも、モーツァルトが未完成のまま残した仕事にジュスマイアーがオーケストレーションを補って完成させた。Druceはこの部分についてアイブラーの仕事を活かして改善を試みる。*Lacrimosa*は8小節目のhomoreusまでがモーツァルトの書いた部分で、以下はジュスマイアーが補った。今から約35年前ベルリンでヴォルフガング・プラーツによって*Lacrimosa*につくべきAmenフーガのスケッチが発見された。Druceは9小節目以下をアイブラーの書入を活かして完成させ、ジュスマイアーが無視したこのスケッチをモーндガー、レヴィンの考えに倣って取り入れ、独自の補完を行った。既存の部分と新資料の違和感が少なくなり、音楽性の高いものになっている。続く奉納唱OffertoriumのDomine JesuとHostiasは、二章とも声楽パートと器楽低音部はモーツァルトの完全な草稿がある。オーケストレーションはジュスマイアーの手になるが、この編集でもほぼ尊重されている。感謝の賛歌であるSanctusとBenedictusはジュスマイアーがモーツァルトのスケッチ風の素材をもとに創作したと考えられている。モーндガーはモーツァルトが書かなかったとしてこの両章を外したが、Sanctusに対してレヴィンは器楽のオブリガートを作曲し、Druceは声楽部を改作することによって従来の作曲技法上の不備を補った。Benedictusは、レヴィンはオーケストレーションのみを変更したが、Druceは冒頭のアルトのソロにジュスマイアーも使った「バルバラ・プロイヤーのための練習帳」K. 453bの中にみられるモチーフを置き、以後を独自のモーツァルト風の楽想で新作した。つまり、ジュスマイアーの作曲のうち冒頭モチーフのみをモーツァルトの関与した部分と解釈したのである。Osannaはジュスマイアー版の主題を使って改作を行っている。平和の賛歌Agnus Deiはジュスマイアーがモーツァルトのスケッチなどをもとに創作した旋律をほぼ保存し、和声を主として改善している。聖体拝領唱CommunioのLux aeternaの序奏はジュスマイアー版より長くなっているが、声楽パートは終結部までそのままにしてある。Cum sanctus以下のKyrieの繰り返しはモーツァルトの指示と伝えられる。

歌 詞 対 訳

Misericordias Domini 二短調 KV.222

Misericordias Domini
Cantabo in aeternum.

われ主のいつくしみを
とこしえに歌いまつる。

Kyrie 二短調 KV.341

Kyrie eleison.
Christe eleison.

主よ、あわれみたまえ。
キリストよ、あわれみたまえ。

Ave verum corpus KV.618

Ave verum Corpus natum de Maria Virgine:
Vere passum, immolatum in cruce pro homine:
cujus latus perforatum unda fluxit et sanguine:
esto nobis praegustatum in mortis examine.

めでたし、おとめマリアより生まれし
まことの御からだよ。
火願のために十字架にてまことに苦しみを受け
犠牲となりてほふられ給い、
刺し貫かれしその人の血と成りて流れぬ。
大河ながれ出で、かつ血と成りて流れぬ。
いまわの試みのときにわれらに予て味わわせ給え。

Requiem 二短調 KV.626

I. Introitus
Requiem aeternam dona eis, Domine,
et lux perpetua luceat eis.
Te decet hymnus, Deus, in Sion,
et tibi reddatur votum in Jerusalem.
Exaudi orationem meam,
ad te omnis caro veniet.
Requiem aeternam dona eis, Domine:
et lux perpetua luceat eis.

I. 入祭唱
主よ、とこしえの安息をかれらに与えたまえ、
そしてたえざる光のかれを照らしたまわんことを。
神よ、シオンに讃美を献ぐるは御身にふさわし、
そして誓いはききたまへ、御身に果たさる。
わが祈りをききたまへ、御身に來らん。
すべて肉なるものは安んじ、
主よ、とこしえの光のかれを照らしたまわんことを。

II. Kyrie
Kyrie eleison.
Christe eleison.
Kyrie eleison.

II. あわれみの賛歌
主よ、あわれみたまえ。
キリストよ、あわれみたまえ。
主よ、あわれみたまえ。

III. Sequentia

1. Dies irae
Dies irae, dies illa
solvet saeculum in favilla
teste David cum Sibylla.
Quantus tremor est futurus,
quando Judex est venturus,
cuncta stricte discussurus!

III. 続誦
かの日こそ怒りの日、
この世を破壊し、灰燼に帰せしむ
ダビデとシビラを証人として。
やがていかにばかりのおののきあらん、
裁く者の来たるとき、
すべてを厳しく裁かんとて。

2. Tuba mirum
Tuba mirum, spargens sonum,
per sepulchra regionum,
coget omnes ante thronum.
Mors stupebit et natura,
cum resurget creatura,
judicanti responsura.
Liber scriptus proferetur,
in quo totum continetur,
unde mundus judicetur.
Judex ergo cum sedebit,
quidquid latet apparebit:
nil inultum remanebit.
Quid sum miser tunc dicturus?
quem patronum rogaturus,
cum vix justus sit securus?

ラッパが不思議なる音を
もろもろの地の御座り響かせ、
すべてのもを鳴り前にあつむ。
死も自然も驚かんと、
造られし者えんみと、
裁く者に答えよん、
書き記されし書物に、
その中によりて世の裁かるとき、
それゆえ、裁く者御座り、
隠れしこととて、
ひとつとして、
あわれなる我、その時何を言わん、
だれを弁護し、
正しきものすらすら心安かるは大方なかるべきときに。

3. Rex tremendae
Rex tremendae majestatis,
qui salvandos salvas gratis,
salva me, fons pietatis.

おそるべきみいつの王よ、
救わるべき者を恩恵もて救いたまう、
慈しみの泉なる御身、われを救いたまえ。

4. Recordare
Recordare Jesu pie,
quod sum causa tuae viae:
ne me perdas illa die.
Quaerens me, sedisti lassus:
Redemisti crucem passus,
Tantus labor non sit cassus.
Juste judex ultionis,
donum fac remissionis,

慈しみ深きイエスよ、思い出したまえ、
御身の旅はわが滅ぼし給うことなかれ、
かの日、われを救はし給うことなかれ、
我を求め、疲れて座したまい、
十字架を、忍び苦しみ、
かばかりの勞苦する正しき裁きの主よ、
応報の罰を正しき裁きの主よ、
赦しの贈り物を施したまえ、

ante diem rationis.
 Ingemisco tanquam reus:
 culpa rubet vultus meus:
 supplicanti parce, Deus.
 Qui Mariam absolvisti,
 et latronem exaudivisti,
 mihi quoque spem dedisti.
 Preces meae non sunt dignae,
 sed tu bonus fac benigne,
 ne perenni cremer igne.
 Inter oves locum praesta,
 et ab hoedis me sequestra,
 statuens in parte dextra.

5. Confutatis

Confutatis maledictis,
 flammis acribus addictis,
 voca me cum benedictis.
 Oro supplex et acclinis,
 cor contritum quasi cinis:
 gare curam mei finis.

6. Lacrimosa

Lacrimosa dies illa.
 qua resurget ex favilla
 judicandus homo reus.
 Huic ergo parce Deus
 pie Jesu Domine,
 dona eis requiem.
 Amen.

IV. Offertorium

1. Domine Jesu
 Domine Jesu Christe, Rex gloriae.
 libera animas omnium fidelium defunctorum
 de poenis inferni, et de profundo lacu:
 libera eas de ore leonis,
 ne absorbaet eas tartarus,
 ne cadant in obscurum:
 sed signifer sanctus Michael
 representet eas in lucem sanctam.
 quam olim Abrahae promisisti,
 et semini ejus.

2. Hostias

Hostias et preces tibi, Domine,
 laudis offerimus.
 tu suscipe pro animabus illis,
 quarum hodie memoriam facimus:
 fac eas, Domine, de morte transire ad vitam.
 quam olim Abrahae promisisti,
 et semini ejus.

V. Sanctus

Sanctus, Sanctus, Sanctus,
 Dominus Deus Sabaoth.
 Pleni sunt caeli, et terra gloria tua.
 Hosanna in excelsis.

VI. Benedictus

Benedictus qui venit in nomine Domini.
 Hosanna in excelsis.

VII. Agnus Dei

Agnus Dei, qui tollis peccata mundi,
 dona eis requiem.
 Agnus Dei, qui tollis peccata mundi,
 dona eis requiem.
 Agnus Dei, qui tollis peccata mundi:
 dona eis requiem sempiternam.

VIII. Communio

Lux aeterna luceat eis, Domine,
 cum sanctis tuis in aeternum,
 quia pius es.
 Requiem aeternam dona eis, Domine,
 et lux perpetua luceat eis,
 cum sanctis tuis in aeternum,
 quia pius es.

清算の日に前に。の如く嘆き、
 我あはわが顔告人成す。しみたまえ。
 罪はわが哀願する者うきを借し。マリアを赦し、
 神御身は願うマケを聞の屈けたまえり。
 御盗賊の願いま望みせられども、寛大なことを。
 我にも願いま望みせられども、寛大なことを。
 わが願いま望みせられども、寛大なことを。
 御身情け深に焼けること、無からんことを。
 永遠の火に所り授け、離し、
 羊の山中に所り授け、離し、
 我を羊の右の方に立たしめたまえ。

呪われしものどき口をふさがれ、
 激しき炎に引く渡さるととき、
 祝福せられし者達と共、我を呼び招きたまえ。
 膝を屈し、ひれかたまり、
 心は灰の如く砕かれ、
 わがいまわの不安を心にとめたまえ。

その日こそ涙の日に、
 裁かれば再び起きよ、
 灰よれば深き主、
 されば深き主、
 悲れらに安息を
 かアメン。

IV. 奉献唱

栄光の王、主イエス・キリストよ、
 すべての死せと信者達の魂を、
 地獄の懲罰と深き淵より解き放ちたまえ。
 それをわが獅子の口より免れしめたまえ。
 願わくは冥府の暗闇に陥らざることを。
 暗闇に陥らざることを。
 願わくは冥府の暗闇に陥らざることを。
 願わくは冥府の暗闇に陥らざることを。
 願わくは冥府の暗闇に陥らざることを。
 願わくは冥府の暗闇に陥らざることを。

主よ、われらの賛美の犠牲と祈りとを、
 御身にささげらるることを、
 今日、われらが記念するこれらの魂のために
 御身を受け入れたまえ。り生命に移らせたまえ。
 主よ、それらに死よとその子孫に、
 かつてアブラハムとその子孫に、
 約したまいしごとく。

V. 感謝の賛歌
 聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、
 万軍の主なる神。地に満つ。
 御身の栄光は天に満つ。
 いと高きところにホサナ。

VI. ほむべきかな
 ほむべきかな、主の名によりて来たる者。
 いと高きところにホサナ。

VII. 平和の賛歌
 世の罪を除きたもう神の小羊よ
 かれらに安息を与えたまえ。神の小羊よ
 世の罪を除きたもう神の小羊よ
 かれらに安息を与えたまえ。神の小羊よ
 世の罪を除きたもう神の小羊よ
 かれらに安息を与えたまえ。神の小羊よ

VIII. 聖体拝領
 主よ、とこしえの光が彼らを照らしたまわんことを、
 御身にささげらるることを、
 今日、われらが記念するこれらの魂のために
 御身を受け入れたまえ。り生命に移らせたまえ。
 主よ、それらに死よとその子孫に、
 かつてアブラハムとその子孫に、
 約したまいしごとく。

東京アマデウス合唱団
渋谷混声合唱団